

「f・wave」とは、

f は、female-女性、
friend-友、
freedom-自由、
future-未来、そして
f-強く、を意味し、

wave は、波を表します。
f・WAVEは、社会環境の変化の
波を誌面を通して伝え、女性が生
き生きと暮らせる未来をめざす
コミュニケーション誌です。

f・wave



特集

ザ・少子化

- ・育児をしない男を、父とは呼ばない?!
- ・どうなる 少子化

父とは呼ばない?!



特集 ザ・少子化

今年の春、厚生省より少子化と子育て支援対策の一環として、ポスターが出されました。男性の育児参加や子育ての大切さ・楽しさと呼び掛けるこのポスターについて、インタビューを行いました。さて、あなたは…

■厚生省にしては斬新な企画・アイデアだと思ったが、こんなふう（PR）しなくては、世の父親が子育てに腰を上げないようでは情けない、というのがホンネ。このポスターが掲示されている間の「期間限定」のような感じも否めない。出生率が下がっているからといっても、産むか産まぬかなんて、大きなお世話。産むにしても、肉体的にも経済的にもせいぜい二人が限界。

（40代 女性 パート 子ども2人）

■共働きだったせいか、特に父親母親と意識することなく、親として関わってきたと思う。というか、忙しすぎてそういうことを考えたことがなかったかなあ。父親の育児参加を呼び掛けるよりも、二次保育の充実や駅前保育所の設置などの環境整備が必須。今日はどっちが保育園の迎えて、明日は？あさっては二人とも大事な会議、子どもが熱をだしたらどうしよう。毎日そんなことを考えながらの生活。世の共働き夫婦はもっとせっぱつまっているんだぞー！

（30代 女性 会社員 子ども1人）

■父親が育児に協力するのは、当たり前前のこと。自分もできるだけのことはしている。出生率が低下しているのは、社会的に独り立ちできない人が増えているからではないか。今が楽しければいいという様な、目先のことしか考えない人間が増えているように思う。親の子どもに対する教育力が低下していることも問題。子どもを可愛がるだけでなく、社会的に一人前にすることも親の仕事だと思う。

（30代 男性 会社員 子ども2人）

■厚生省のポスターは、よくここまで言ってくれたという感じ。サムさんを使ったのもタイムリーで、印象に残った。お役所も変わってきた。国をあげて、今までの父親の役割を変えようとしている意図が見られる。男性にも家事全般に関心を持つてもらいたいし、「男は働いているだけでいい」という考えの人は結婚の対象にたくない。

（20代 女性 会社員）

■まだ結婚していないから、よくわからないけど、子どもは男女一人ずつ欲しいなあ。きつとかわいがると思うよ。（10代 男性 学生）

■父親は父としての、母親は母としての役割があるのだから、それぞれの役割をこなしながら、お互いが協力しあっていけばよいのではないかと思うので、「育児をしない男を、父とは呼ばない」と、決め付けるのはどうかと思う。

（20代 男性 大学生）

■出産は実際女性の負担になっているけれど、これって『女性の特権』とも言えるのでは。胎動を感じたり、一人の人間を十カ月も自分の体内で育て、産んだ時のあの喜び、おっぱいに吸い付く可愛い顔、自分に向けてくれる微笑み。男にはこんなすばらしい感動は味わえないんです。そして子育てを楽しんで欲しい。損得なしの愛情です。

（40代 女性 主婦 子ども3人）

■この父子の姿は、昔も今も変わらぬ姿です。私の夫は、育児とまではいきませんでした。仕事を愛し、家庭も子どもも大事にする人でした。それでよいのでは。

（70代 女性 主婦 子ども2人）

なぜ今、女性が子どもを産まなくなり、少子化といわれる時代になったのでしょうか？

経済的なこともさることながら、妊娠・出産をはじめとして、女性の肉体的精神的な負担も大きな要因となっています。

そこで、女性に関わる医療の現状と今後について、あきる野市医師会会長にお話を伺いました。

これから大切なのは 心の医療

医学博士（あきる野市医師会会長）

こづえとしあき
小机敏昭さん

Q ずばり、少子化について、どうお考えですか？

A 工作上、若い人たちと話す機会も多いのですが、彼らの結婚観は、ぼくたちの時代とはずいぶん違ってきますね。あまり結婚を意識しない。仲間として楽しくつき合っている。独身を謳歌する彼らに、なんとか結婚してもらわないと

（笑）子どもは増えないでしょうね。シングルマザーについても、奨励するわけではありませんが、もう少し寛容な方向で考えていく時代がきているのかもしれない。

Q 医療現場からみて、父親の育児参加は、どうですか？

A 最近のお父さんたちは、昔よりずっと協力的ですよ。子どもの予防接種に付き添ったり、母親学級に参加し、一生懸命に勉強したり。あきる野市には、育児に積極的に関わろうとする男性がたくさんいますよ。反面、やさしい父親ばかり増え、子どもを厳しくしつける父親がいなくなっている気がしますね。その分、母親が怖くならざるをえないのかも…（笑）

Q 晩婚化に伴う高齢出産のリスクは？

A 確かに、高齢になればそれだけ、妊娠中毒症、流産などの確率は高くなります。しかし、医学も進歩しています。医師の管理のもとに注意さえしていれば、必要以上に怖がることはありません。

Q 最近、ピルが解禁されましたが、どんな薬なのでしょう？

A ピルは避妊薬というイメージが強いですが、更年期障害、子宮内膜症などの治療薬でもあります。解禁されたことで、女性側の意思で避妊ができ、効果も高いことから、今後は人工中絶が減るでしょう。女性の肉体的、心理的負担を考えれば、良いことだと思います。アメリカでは、34〜35%の女性が使用しています。ただ、あくまでも産婦人科医の管理が必要です。特に、喫煙者、35才以上の

方は、副作用（高血圧、心筋梗塞など）が出るがあるので要注意です。

Q 医療面からの女性支援策にはどんなものがありますか？

A 母親学級には、力を入れてきました。これからは、心の医療、ケアがとても大切になってくると思います。多様化する生き方に伴い、いろいろなストレスに悩む女性が増えています。精神科医だけが、心のケアをすれば良いという時代ではなくまりました。こうした考え方のもとに、医師会ではマザー・メンタル・ヘルスに関心を持ち、どの医師でも、女性の心の病気に対応できる体制をつくっています。一人で悩みを抱えていないで、まずは、気軽にかかりつけの医師に相談してみてください。

◆取材を終えて

子どもを産み育てることが、男女一緒に喜びになるためには、家庭・社会の両方で、女性の心と体の健康をサポートしていくことが大切だと思いました。



あきる野保健相談所で行われている沐浴風景

少子化



平成10年度版厚生白書では、「家庭・地域・職場・学校」の現状を浮き彫りにし、少子社会について問題提起をしています。

国ではこの問題について、どのように取り組んでいくのか、厚生省児童家庭局企画課でお話を伺いました。

子どもを産み育てることに「夢」をもてる社会を

厚生省児童家庭局企画課

飯田耕一さん



直撃インタビュー!!

Q 歌手の安室奈美恵さんの夫である、ダンサーのSAMさんと長男をモデルに、今年3月「育児をしない男を、父親とは呼ばない」と書いたポスターが発表されましたが、反響はいかがでしたか？

A 少子化・子育て支援の一環として実施したのですが、あまりの反響の多さに正直驚いています。メールや手紙だけでも百件を超えました。電話も入れるとかなりの数になりますね。女性の賛同者が多いの言うまでもありませんが、思ったより男性も好意的に受け取ってくれたようです。

「よく言ってくれた」「国が口だしするな」等、意見は賛否両論ですが、いずれにしても子育ては楽しいもの、かっこいいものだということを考えてももう有意義な

ポスターであったと思っています。日本のマスコミをはじめ、ワシントンポストなど海外の新聞社からの取材もありました。日本男性の働くイメージとポスターが違っていると驚いていましたが、随分好意的に取り上げてくれたようです。

Q 少子化が社会全体に与える影響は？

A 子ども同士がふれあう機会が少なくなり、社会性や自主性が育ちににくくなります。そして、年金等社会保障費用にかかわる現役世代の負担の増加、更には若年労働力が減少し、社会全体の活力が低下することも考えられます。

Q それでは対策として、国ではどのような取組みをお考えですか？

A 子育て支援の環境整備を重要なポイントとして考えています。7月に「少子化対策臨時特例交付金」が国会で成立しました。駅前保育ステーションの設置、在宅保育サービス提供者の育成事業、児童施設等の設備整備など、その地域の実情に応じた少子化対策事業をそれぞれの自治体で実施し、その経費を交付するものです。

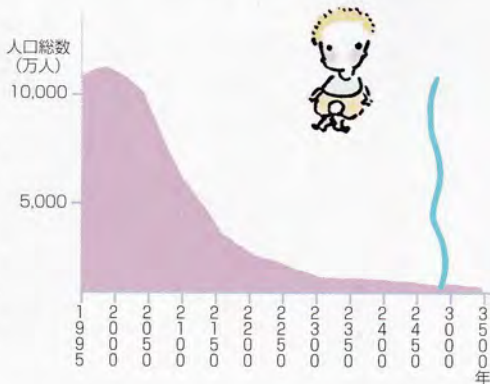
当面、厚生白書のサブタイトルにある「子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を」これを全面に掲げ、政府全体として取り組んでいきます。

◆取材を終えて

ポスターが出てから「あなたは子育てをしていないので父ではない」と奥さんに言われてしまうほど、連日の残業で育児に関わるのは専ら休日のみという、担当の飯田さん。このような事業を進める厚生省の職員が、仕事に追われ、子育てに関われないというのも、残念なことです。少子化対策は、家庭や地域だけでなく労働問題を含め、もっと社会全体で考えていかななくてはいけないと思いました。

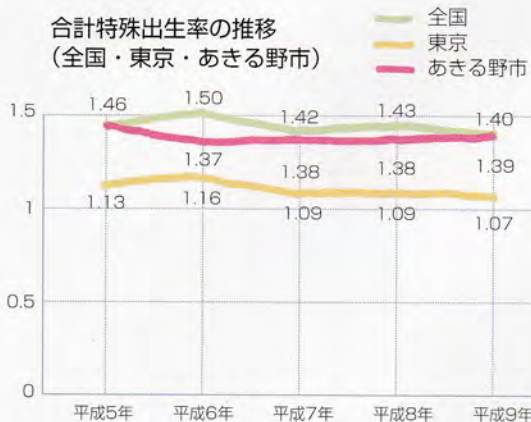
仮に、出生率、死亡率が1996（平成8）年のままとした場合の将来の日本の人口

仮に、1996（平成8）年における女性の年齢別出生率（合計特殊出生率1.43）、出生性比（女性100に対して男性105.2）および死亡率（平均寿命 男：77.01歳、女：83.59歳）がずっと続いた場合の状況を、敢えて計算してみると、日本の人口は、2100年ころには約4,900万人、2500年ころには約30万人、3000年ころには約500人、3500年ころには約1人という計算になる。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口問題研究」（第53巻、第3号、1997年）

合計特殊出生率の推移（全国・東京・あさる野市）



（注）合計特殊出生率は、その年の女子の年齢別出生率を合計した値で、年齢構造の影響を除いた出生率の水準を示す指標である。この年齢別出生率が続くとすれば、合計特殊出生率は1人の女性が生涯に平均何人の子どもを産むかを示す。

資料：人口動態統計年報（確定数）（衛生局）
人口動態統計（確定数）の概況（厚生省）

だってバリバリ!!!
 兼業

女性ならではの
 感性やこだわりを
 大切にしています...



この仕事を選んだ理由は？

住宅の間取りを考えたりするのが好きだったんです。専門学校で本格的に建築の勉強を始めた頃は、課題の図面が完成すると、嬉しくて家族全員に見せてまわるほどでした。

理想と現実の違いはありましたか？

建築士を目指し夜間通学。帰宅はいつも11時過ぎでしたが、少しも疲れは感じませんでした。やっぱり若かったのでしょうか。パートナーである建築士の夫とは共働きで、家事は分担してと考えていました。



建築士 ^{きのした} 木下ちふみさん

設計事務所の全ての責任を負い、連日深夜までフル回転の夫。

私は家事に育児、来客の応対に追われ、夜、ようやく子どもたちを寝かせてから、図面を仕上げたり、資格取得を目指して、机に向かうことが多かったですね。

この仕事について

周囲からは？

建築現場に出たり、高い所に立ったりもしますが、女だからといってとまどったり、やりにくいと感じたことは一度もありませんね。周りには気を遣わせたかも...(笑)。私が家庭生活と好きな仕事を両立してこれたのは、自宅と仕事場が近かったこともありすが、夫

の協力と母や姉たちの応援があったからです。

子どもたちは、共に働く私たちの姿を見て育ったせいかな、上の二人は今、同じ事務所働いています。

今後の抱負について
 お聞かせください。

建築の分野は奥が深く、建築基準法や関連法規など、しばしば改正されます。子どもたちに「もっと勉強しなさい」などと言ってしまうのですが、実は自分自身にもハッパをかけているのかも...(笑)。今後も、女性ならではの感性やこだわりを大切にしながら、自分なりに力を発揮していければと思っています。

取材を終えて

現在、建築の分野を希望する人は多いですが、女性はまだ少数のようです。

「設計やインテリア部門など、建築関係の仕事は多種多様で、女性もつと進出できる分野なのは、一人でも多くの女性たちに活躍してほしいですね。」と語る木下さん。さわやかな笑顔がとても印象的でした。

ジェンダーチェックの答え

- ・「女の子はピンク」「男の子は青」と性別で色分けしなくてもいいよね。
- ・どうして出席簿は男の子が先で女の子があとなの？
- ・女の子は裁縫得意で、男の子は苦手？
- 練習すれば女子でも男子でもできるようになるよね。それに、これからの生活の中で必要だと思うよ。
- ・お父さんも、学校の行事に積極的に参加しましょう。



ジェンダーチェック ~学校編~



街角スポット 3

明治草創期の記憶を訪ねて

萩原タケの胸像と五日市憲法草案の碑

—五日市庁舎前—

五日市庁舎の玄関脇に、ハイカラな帽子をかぶり毅然とした様子で、訪れる人を迎えている萩原タケの胸像があります。

萩原タケは、明治六年五日市村なかしも中下宿（現在の五日市）の炭間屋萩原家の長女として生まれました。

幼い頃から活発で向学心旺盛なタケは、早くから自活への道をめざし、

日本赤十字社病院の看護婦になりました。若くして看護婦長から監督と化したタケは、多くの優秀な看護婦を育成、その地位向上を図るため日本看護婦協会を設立、各種の国際会議に出席するなど先駆者的役割を果たし、大正十年には日本で最初のナイチンゲール記章を受賞したのです。

しかし、これらの功績には、タケ自身の心の揺れがありました。タケは、生涯独身を通しましたがその理由は、当時の看護婦は結婚すると退職しなければならなかったからです。結婚とは縁のないことと決めてはいたものの、何度と

なく舞い込んでくる縁談話に、タケはどんな思いでいたのでしょうか。そんなことを考えながら、胸像の前に立ってみると、看護婦としてだけではなく、一人の女性萩原タケの生き方が見えてくるかもしれません。

また、庁舎前には五日市憲法草案の記念碑もあります。五日市憲法は、明治の自由民権運動が盛んな頃、私擬憲法制定の動きの中で作られたものです。この碑には、現在の憲法に匹敵する内容として高い評価を受けている、基本的人権についての条文が刻まれています。

庁舎を訪れた折には、ちょっと立ち止まって明治の人々の力強さにふれてみませんか。

参考図書「萩原タケ」五日市町郷土館

「わが道は白衣とともに」PH.P研究所



本



◆ワガママなバアサンになって楽しく生きる

樋口恵子 著
大和書房

自分の老いを真っ直ぐに見つめる著者の洞察力は、時に鋭く時にニヤリとさせられます。

読んで元気になれることうけ合いの、ちょっとワガママな貴女にぴったりの必読の書。



◆老いて「新しい自分」と出会う

吉沢久子 著
講談社

年を重ねていくことは「新しい自分」に出会えると言う、著者ならではのプラス指向。肩の力を抜いて、自然体で生きていくことの大切さを教えてくれる一冊。

※この本は、市内図書館で借りられます。

ライフステージ
セミナーに参加して

「女の人生選び」

仕事、結婚、生きがい—
リスクをどう最小限にするか

7月14日(水) あきる野市教育委員会主催のライフステージセミナーに参加。講師の朝日新聞社会学部次長竹信三恵子さんより、女性の仕事、結婚、生きがいについての未来シナリオが示されました。

「資産も技能もない女性が、専業主婦になる場合、夫の資産を把握しておくこと」「失敗した時、挫折した時は、自分で自分を立て直せる力をつけること」「結婚しても働き続けようと思ったら、夫選び、会社選びを慎重に。そして、どうせ女だからと諦めないこと」と竹信さん。

最後に「資格は取るだけでなく、どう使うかも考える」「子どもを持つ女性が

働くことは、会社にとってプラスである」「労働条件の厳しい職場で働く人の心得」等、温かくちょっぴり厳しいエールが送られました。5年後、10年後の自分はどうかしたいのか、そのために今すべきことは何なのか、真剣に考えていかなければならない時代がやってきたようです。

Information

◆ワーキングセミナー参加者募集

インフォメーション

20~30歳代女性のための再就職サバイバル作戦

~21世紀には企業が変わる 社会が変わる あなたは?~

企業が求める人材とは
社会に出て働くために事前によく学習とは

- 講師 国領みどりさん(人材教育コンサルタント)
- 日時 ①10月22日(金) ②10月29日(金) 午後2時~4時 全2回
- 対象 2、3年後に再就職を考えている女性で、2回とも参加できる方(30名)
- 場所 あきる野ルピア
- 10月1日(金)より受け付け開始 ※保育あり(予約制)
お申込みは女性係 内線3015へ



あきる野女性プラン推進
市民会議が発足

5月19日(水)、第1回あきる野女性プラン推進市民会議が開催されました。

市民会議では、男女共同参画社会の実現をめざし、市女性行動計画を推進していくため、専門的知識を有する立場、市民としての立場から協議検討していきます。

委員は、一般公募の3人を含め市民10名で、会長に長谷川照代さん、副会長に栗原一夫さんが選出されました。

市民会議委員

委員名
市 倉 育 子
荻 原 冷 子
栗 原 一 夫
清 水 浩 子
外 口 光 博
長谷川 照 代
村 野 八千代
山 石 智 子
遊 佐 八重子
和 田 誠一郎

(敬称略)

編集後記

- ◆少子化進行で、社会のゆがみがみえる。地域の豊かな暮らしの支援をぜひ。 沢田美佐子
- ◆拝啓 少子化様。あなたに会い、いろいろと考えさせられました。 中山佳代子
- ◆アレヨ、アレヨと言う間に第3号の発刊。力、及ばずゴメンナサイ。 榎永 朝子
- ◆ナカナカ原稿が出来なくていつも冷汗だったけど、掲載されるととてもウレシイ。 丸山きよみ
- ◆都合で厚生省へインタビュー行けなくて残念……。私も行きたかった! 水口 倫子
- ◆編集委員一年生として楽しく勉強させていただきました。 池田真由美
- ◆少子化問題を取りあげて、改めて専業主婦の必要性を実感! 志村美智子
- ◆思ったより大変だったけれど、楽しかったし、勉強になりました。 藤村 美映

表紙/しまだ・しほ

この情報誌に関するご意見・ご感想、また、誌面で取り上げてほしいテーマなどを下記までお寄せ下さい。

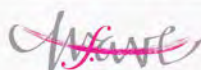
男女共同参画社会基本法が成立

NEWS

男女共同参画社会基本法が、6月15日に成立し6月23日から施行されました。

この法律は、男女共同参画社会の形成についての基本理念を明らかにしてその方向を示し、将来に向かって国、地方公共団体及び国民の男女共同参画社会の形成に関する取組みを、総合的かつ計画的に推進するため制定されたものです。

あきる野市女性情報誌は、市役所・公民館・図書館・生涯学習センター・ファインプラザなど、公共施設に置いてあります。



エフ・ウェイブ
第3号 1999年10月発行

発行/あきる野市教育委員会社会教育部社会教育課
〒197-0814 あきる野市二宮350
Tel 042-558-1111 (内線3015)
企画・編集/あきる野市女性情報誌編集委員会



古紙配合率40%再生紙を使用しています